

次期「滋賀の教育大綱」について

平成30年度第4回総合教育会議 資料1

1) 策定期間 2019年度から2023年度まで

2) 大綱の構成

「滋賀の教育大綱」＝「知事の思い」＋「第3期滋賀県教育振興基本計画」とする。

※ 第3回総合教育会議において、次期「大綱」と次期「計画」の一体化が決定されたことから、「第3期滋賀県教育振興基本計画」に知事の思いを加え、次期「滋賀の教育大綱」と位置付ける。

総合教育会議におけるこれまでのご意見 別紙 参照

3) 次期「滋賀の教育大綱」策定にあたって

○ 未来にはたくさんの世界が広がり多くの可能性に満ちている。また、知らないことを知ることはとても楽しいことである。未知の世界に触れ、いろんな景色を楽しむ可能性につながる、学びの楽しさを県民と共有する大綱とする。

○ 基本計画の中から特に重点的に取り組む施策を「読み解く力の向上」とする。

※ 第3回総合教育会議における御議論を受け、次期計画におけ取組の中から、確かな学力を身に付けるとともに社会で生きていくために必要な力である「読み解く力」の育成について、特に重点的に取り組む。

【滋賀での学びで目指す「読み解く力」とは】

- ・ 国や他自治体の計画では、読解力として主に文章やグラフなどから読み解く能力を育む取組を進めているが、読解力だけではなく、人として他者とのやりとりから相手の言葉やしぐさ、表情などから相手の思いを読み解き理解する能力も合わせて身に付けようとするもの。
- ・ 「確かな学力」を育むだけではなく、人としての「感受性」と「コミュニケーション能力」も併せて向上させることにより、AI(人口知能)にはない、「人間力」の向上を図るもの。
- ・ 主に文章やグラフなどから読み解く能力と相手の思いを読み解き理解する能力を合わせて身に付ける取組は、滋賀らしい教育の1つの特色となるもの。

平成30年度 総合教育会議(第1回～第3回)における主なご意見等

<第1回「滋賀の教育が目指すべきものは何か①」 5/11 >

- ・ 一人ひとりの個性を大切にしながら、どのような状況に対しても柔軟に対応できる「学ぶ力」「生きる力」を身に付けられるような人づくりをしたい。
- ・ ここぞ人間！というところを伸ばすことが次の大綱には入るのではないか。
- ・ 人生100年時代では60歳からの学びも必要。
- ・ 20年教育も大切だが、大人の学びや生涯学び続ける視点がいる。
- ・ 機械は言葉の本質的な意味を理解できない。そこに人間のすべきことがある。
- ・ ものごとの意味や意義をとらえ、自分は何がしたいのかを考えることが夢であり、そのために自ら考え、課題を解決する力が生きる力である。
- ・ ICTを活用する教育は先生のトレーニングや費用が必要。人との関わりの中での教育と並行して準備していく必要がある。
- ・ 何を重点的にやっていくか明確にしていく必要がある。
- ・ 夢と生きる力が大切で、夢をどう身に付けていくかが重要。さらに、そこに向かって何かをやりとげる力をどう付けていくかが重要。
- ・ 滋賀の教育が最上位に目指す目的は、滋賀らしいものであるべき。
- ・ 春の甲子園で応援が高く評価されたように、学校や地域の人が一丸となって、心のこもった応援をしているといった滋賀ならではの部分を伸ばしていく必要がある。
- ・ 一定の知識を身に付け、その上で駆使する力が大切。
- ・ 相手がどう思うか。どう感じているかということを読み、考える想像力が大切。

<第2回「次期大綱について①」 6/6 >

- ・ 滋賀ならではの教育活動、体験活動というものをしっかりと大事にしていきたい。
- ・ 夢と生きる力というものを大事にしたい。
- ・ 一人ひとりの個性、その子らしさ、その人らしさを大事にしたい。
- ・ 子どもだけではなく、大人も社会全体で学び合えることを表現したい。
- ・ 「滋賀ならではの学び」、「近江の心」を柱か計画の中に反映する。
- ・ 大綱と計画が一体でないと施策の整合性がとりにくい。ベースにあるものは同じ。
- ・ 教育の中で心の幹を太くしEQを高めることが大切。知識だけではいけない。
- ・ 学校教育の期間は20年程度。その間に基本目標がころころ変わるというのはどうか。不易の部分である。
- ・ 逆境の中でも、希望を失わずがんばって生きていこうという思いが大切。

＜第3回「次期大綱について②」 9/18＞

- ・ 次期大綱と次期計画は一体的なものとして取り扱う。
- ・ 次期計画における審議会からの答申内容は、これまで総合教育会議で議論をしてきた内容と齟齬のないもの。
- ・ とがった部分、滋賀県として訴えたい部分、フロントランナーとしてやっていくと言えるような部分を計画の中からうまくピックアップして整理する。
- ・ 学んだ力をSDGsに生かすことで滋賀らしさが出てくるのではないか。
- ・ 「共に育つ」から「共に生きる」になり、教育が身近なテーマになる契機。だからこそ、どう発信、具現化していくかが問われている。

（知事）

- ・ 5年間でここを重点的にというものを計画の中から抜き出し最初の方に書き込んで計画と合わせて大綱とする。
- ・ この5年間、次の部分が力を入れるところと考えている。
「基礎的・基本的な知識および技能の充実・定着」、「読み解く力」、「系統的な教育」、「人権教育」、「食と健康のつながり」、
「情報活用能力」、「キャリア教育」、「教職員の教育力」、「困難家庭にいる子どものサポート」、「学び続ける視点」、
「スポーツ」、「読書活動」